

新病院整備事業市民説明会のご意見・質問概要

令和6年7月30日（火）午後7時開催

会場：ライブラリーちくさ

※ホームページの公表に際し当日の発言のままではなく表現や内容を整理・精査しています。また、当日お答えできなかった内容及び訂正箇所については、下線部にて記載しています。

◆建物の構造に関すること

No. 1 【耐震構造について】

質問	減額するためにどうして構造を変更したのか。病院なので、そこが一番大切なところだと思うが、その理由を聞きたい。
回答-1	<p>昨今の予想外の物価高騰等で非常に事業費が上がっています。その中でも、医療機能を当初の計画から変えずにそれ以外の要素でできるだけ事業費を抑制するため、様々な検討を行い、結果、構造もその一つとして免震構造から耐震構造に見直しました。</p> <p>耐震構造については、法的にも地震に耐えうる構造となっています。</p> <p>また、国が官庁施設に求めている耐震性能において、災害時に拠点として機能すべき病院の位置づけに準じ、耐震安全性の分類では、建築基準法の1.5倍の強度となる、I類の構造体となっています。</p> <p>変更によるメリットとしましては、事業費を抑制し、建築コストが抑えられること。また、工期が短縮できることなどが挙げられます。</p> <p>デメリットとしましては、地震時における建物の揺れや変形が大きくなりがちなことや、同じ構造種別であれば、柱や梁の断面寸法が大きくなるのが一般的に挙げられますが、その対策としまして、筋交いや間柱などの工夫により、大きな地震時における変形を抑えることや、耐震天井化や什器の転倒防止策をあわせて講じることで、被害をできるだけ抑えるように計画しています。</p> <p>また、事業費の198億円と156億円の差額42億円のうち、約15億円は、工事施工予定者と工事契約を締結するまでの物価上昇見込みを想定しているもので、確定した金額ではありません。</p>
回答-2	<p>医療機能をいかに維持して事業費を抑えるかという多角的な検討の中で、免震構造にはメリットがありますが、免震構造でなければ地震に弱いかといわれれば、決してそのようなことはありません。</p> <p>法的に耐震構造でも認められていますし、新病院の建物は4階建てです。高層ビルのような建物では話が異なりますが、建物にも様々な形態がある中で、全てが免震でないといけないというものではありません。耐震構造のデメリットもありますが、法的にも地震に耐えうる耐震安全性は担保されているということは、ご理解頂きたい。</p>

No. 2 【耐震構造について】

質問	<p>耐震のことで、減額するための会議を12月20日にされている。減額するために、一応みんなで会議したという跡をつけたいということだと思うが、そのあと1月1日に能登半島のほうの地震があった。</p> <p>耐震になっても大丈夫だと言われるが、能登半島の様子をネットで見ていると、免震構造が中も壊れない。病院も免震構造にして、耐久年数も長いし、新しい病院を建てた25年後には、また、耐震構造は耐久年数が短いので、10年ぐらいたとネットにのっているの。それが本当か分からないが、ただ20年たったら、また次の病院を考えないといけないとか。</p> <p>皆さんも40年前経験あると思うが、震度4で山崎断層が動いた。朝の9時頃だったが、そのときすごく揺れた。その後、半年から1年ぐらいう余震がずっとあった。昼夜、怖かった思いをしている。そういうことを考えているうちに、地図で山崎断層を見るに至った。</p>
----	---

	<p>山崎断層帯というのがあり、大原から土万～山崎～安富～三木まで連なっている断層、本当にその上に病院の場所がある。</p> <p>ちょっと場所の選定もまずかったかなと個人的に思っており、もっと議論してからつくられたらよかったなと思っている。</p> <p>もっと皆さんにそれを考えていただきたい。本当に地震が100年後かもしれないし10年後かもしれない。でも山崎断層が40年前、ちょうど5月に揺れた。そのあと10年してから阪神大震災、それから熊本や東日本があった。この1月1日は、能登半島でもあった。私たちは死ぬまで、それから子どもたちはずっと住み続ける、そのときに病院があってほしい。持続可能な病院にしていきたい。大事なところをケチって大きな病院にして、何かそこら辺がちょっとよく分からない。市債が広報に4月号に載っていた。400何億もまだ残っている。借金です。</p> <p>それなのに、コロナ太りのお金が残っているからといって、そこからプラスマイナスして。9年10年は大丈夫だと思うが、本当に子どもたちの将来が心配である。私たちはもう10年で死ぬかもしれない。その辺をもっと議論して、より良いように宍粟総合病院を考えていただきたい。</p> <p>市長はいつも「安心安全」と言われている。安心ですかこの病院は。地震に弱いような病院をつくって。と個人的に思う。</p>
<p>回答 -1</p>	<p>基本的には安心安全で持続可能な病院という形で検討したいと思います。</p> <p>ただ一つ、お願いがあります。「コロナ太り」という言葉は病院に対し大変失礼な表現だと思います。先生方を含め、コロナ流行時に、医療従事者の皆さんにはどれだけ頑張っていたか。一生懸命対応いただいて交付金をいただいた結果なので、その表現だけは勘弁していただきたい。でないと、医療従事者に大変申し訳ないと思います。</p> <p>ただ、安心安全という部分はその通りです。</p> <p>できるだけ持続可能で安心安全なものを計画したいと思いますが、建設コストの抑制など、今の経済情勢の中でいろいろな議論をした結果、今回の変更になりましたので理解いただきたい。</p>
<p>回答 -2</p>	<p>宍粟総合病院の場合、病床数の割に事業費が高くなっている理由は、市内に唯一の病院であるということです。都市部の病院であれば、いろいろな病院があり相互の補完ができます。ところが、総合病院は、西播磨北部の唯一の病院なので、昭和50年の郡民病院の開設以来、この50年近く、様々な変遷の中で、地域の医療ニーズを踏まえて、いろいろな機能が足し算されてきました。</p> <p>そして今現在では、MRIやCT、内視鏡や透析センターまであります。通常、この病床規模の病院でこれだけの機能を備えた病院はありません。それは決して無駄な機能が備わっていることではなく、この地域の立地の中で、そして地域住民の方の医療ニーズの中で、先人の方々が議論されて、この機能を積み上げてきたとこういうことであります。今後将来において、どこかに大きな病院ができることもなく、その予定もありません。そういった中で、この医療ニーズや人口減の問題等ではありますが、そのような点も改めてご理解いただきたいと思います。</p> <p><u>補足説明</u></p> <p><u>耐用年数（法定耐用年数）については、鉄骨造や鉄筋コンクリート造など、構造の違いにより定められているもので、耐震構造や免震構造の違いにより耐用年数に違いが生じることはありません。</u></p> <p><u>また、耐用年数（法定耐用年数）は、減価償却の算定に用いられる期間になるため、その期間の満了をもって、すぐに建て替えが必要になるというものでもありません。建物の適正な維持管理を行うことで、法定耐用年数が過ぎた後でも問題なく使用できます。</u></p>

◆水害対策に関すること

No. 1 【浸水想定について】

質問	揖保川から病院の予定地まで、どのくらいの距離があるのかを聞きたい。
回答	ハザードマップ上の1万3500分の1の縮尺で申し上げます。病院用地の一番南側が河川との距離が一番近くなりますが、その位置で約55mです。また、敷地の北側は県道沿いになります。その辺りでは河川から約94mの距離になります。ハザードマップの図面上での計測になりますので、明確な測量ではないことは御理解いただきたいと思います。

No. 2 【盛土計画（地盤の嵩上げ）について】

質問	<p>ハザードマップなどで見ていると、浸水が5mから10mという数字が出ている。造成の費用もマイナスになっている。そういうのがどこかに減額されたのかと思った。</p> <p>それと、盛り土についてもまだ3mで計画されているのか。</p> <p>揖保川から病院の予定地まで、55mと言われたが、先日、山形では最上川とかの大きな川ではなく、普通の小さい川が氾濫し、河川から2.4kmのところの家が浸水した。</p> <p>2.4km離れていてもそんな状態だが、55mしか離れていないのに大丈夫か。全国を見ていたら、そういうところは、病院を建てるときに一階を駐車場にするなど、いろいろ工夫されている。でも今回は、盛り土が3m。</p> <p>やはりこういう時代、いつ何があるか分からないので、3.5mにしようか4mにしようかという議論はなかったのかと感じた。</p>
回答	<p>ご家庭に配布しているハザードマップは、想定しうる最大規模の降雨による浸水を想定しており、川が氾濫した場合の水害リスクを表しています。</p> <p>この最大規模の降雨は、1,000年に1度の確率を想定しており、浸水想定範囲を皆さんにお知らせし、居住地の水害リスクを確認して頂き、避難等に役立てていただくために配布しているものです。</p> <p>また、計画規模降雨といいまして、土木工事や河川工事等を行うに当たり、国や県が対応している浸水規模がありますが、これは、100年に1度の確率を想定しています。</p> <p>今回の病院建設地においては、0.5mから3m程度の浸水想定がされており、その対策として、3mの嵩上げを計画しています。</p> <p>また、災害ハザードエリアの開発抑制については、新病院建設地は山崎地区なので、都市計画区域内の規制がかかります。しかしながら、宍粟市の都市計画区域は、「市街化区域と市街化調整区域の線引きがない区域」になりますので、法令の「市街化調整区域の厳格化」には抵触しません。あくまでも、法令の範囲内で計画するというご理解頂きたい。</p> <p><u>補足説明</u></p> <p><u>3mの嵩上げをする中で、万が一、1000年分の1の確率でおこる浸水があった場合においても、入院患者さんがおられる3階以上は浸水を避けられるように計画しています。</u></p>

◆収支計画に関すること

No. 1 【収支シミュレーションの作成について】

質問	収支シミュレーションの説明があったが、基本的に、私はこの内容を全然信用していない。ぜひとも市の組織内だけではなく、公認会計士や税理士など、第三者機関に確認してもらって、この収支シミュレーションはもう間違いないという太鼓判を押してもらった形のものを市民にお示ししていただきたい。
回答	<p>全国の公立病院が経営強化プランというものを国の総務省の指示のもとにつくっています。宍粟総合病院についても、今年の3月末に作成しました。</p> <p>このたびは、この地域戦略プランの作成時期と新病院整備事業が重なっていたため、経営強化プランの附属資料として収支試算表をつくり、国が整備をしている経営財務アドバイザーに登録されている方へお願いをして、経営強化プラン作成のアドバイスをしていた</p>

	<p>できました。</p> <p>その作業の一環として、ご指摘のあった収支試算の関係も見えていただき、算定方法やシミュレーションとしては合理的な考え方でされている旨のご意見をいただいております。</p>
--	---

◆人材確保に関すること

No. 1 【人材の確保について】

質問	<p>病院運営は非常に難しく、特に人の問題がある。人をいかに確保するかというのが、今の病院運営の中で最も重要なポイントになってきている。</p> <p>病院の場合は、7割方が国家資格を持ったプロの集団である。新卒者が就職先を選ぶときには、自分が早く立派に成長できる医療機関、そういったゆとりのあるきれいな病院を選択される方がかなり増えてきている。</p> <p>そういった意味でも、萎縮をせずに、もう少し、研修医を含めて、新卒のスタッフが優秀に育つ環境を整えていただけるような環境をつくっていただいて、今後の市の運営に寄与できるような、すばらしい病院にさせていただきたい。</p>
回答 -1	<p>人の確保ですが、昭和時代は地域医療もほとんど大学病院が主な役割を担っており、医師が定期的に派遣されて地域の公立病院は成り立っていました。そうやって昭和時代は続いておりましたが、平成中期から、新臨床研修病院制度というのが始まり、医局派遣という昭和時代から続いたものが終わりました。一時期、当院はそれで壊滅状態に近いようなことになりました。特に内科、整形外科です。このままでは病院の存続が危ぶまれる可能性があるということで、地域で一から研修医を育て、彼らにその後を託していくようなシステムをつくらないと、大学病院に何度頭を下げに行っても、そういうことは無理になっています。</p> <p>現在では、派遣先の病院について、ここは若手が多くても、きちんと育つ病院なのか、しっかりと協力してくれる病院なのかという体制が問われています。</p> <p>ですから、大学側の「この人を任して大丈夫なのか」という、きちんと任せられる病院にならないと人は来ないです。県の養成医師は、派遣という形で来ます。これは希望もあります。基本的には県からの派遣ということになります。派遣で来た若手医師、これをどうしてあげるかということが一番大きな問題で、単に人手不足だから、マンパワーで便宜扱いしてしまうと使い捨てで終わることになり、彼らは二度とここには来ないわけです。そういう病院もこれまで見てきました。</p> <p>そういう病院はまず駄目です。とにかくその来た人たちをどうやって育てて一人前にしてあげられるかということでもって、彼らが次の担い手になってくれるかどうか決まります。</p> <p>研修生は、2013年に自治医科大学卒の人が一人来たのが最初でした。それから11年たち、今では、13名になりますけれども、彼らの中のかなりの人が、これからこの実栗地域で働きたい気持ちがあると言ってくれています。ですから、彼らを大事に育てないともう未来につながらないし、彼らが今度、年を重ねたときに、次の世代を彼らが育て切れないと、又は育てる能力がないともう続きません。</p> <p>これから地域医療を維持するためには、いわゆる教育できる病院であり続けることというのがもう必須条件になってきています。ちなみに兵庫県下で医師が不足せずに続いている病院は臨床研修病院のみです。臨床研修病院でない病院は、医師派遣はないです。</p> <p>医師を獲得する方法は、インターネットなどを利用して、連れてきてもらうというシステムになりますが、一時凌ぎにしかなりません。</p> <p>大事なことは、10年かかっても20年かかっても、人材を育てるやり方をやらない限り、未来につながらないと思います。</p> <p>新病院も、ゴールではなくスタートだと思っています。これからの地域医療を継続させるための大事な新病院だと思っているので、病床規模云々のことも言われましたが、この規模はどうしても若手を育てるために必要な最小限度の単位であるということ。内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、これらがこの地域にとっては絶対必須の医療で、これ</p>

	<p>を維持できなければ、地域で中核病院としては継続できないこと。人の確保ということは、イコール人を育てることができ続けなければならないということだけ、皆さん分かっていたらと思います。</p> <p>これからもずっとそういうふうにして若手を育てていきたいと思っているので、ご理解いただきたいと思います。</p>
回答 -2	<p>昭和 50 年の開院以降、この病院は 49 年余り経過しております。また、経営指標のうち、重要な指標ということで、経常損益、単年度資金収支という二つの指標を説明しました。</p> <p>そのうち経常損益については、郡民病院として開院して 49 年余りではありますが、黒字化した年度は僅か 15 年になります。つまり、今まで病院が運営してきた期間で、3 分の 1 程度しか、定義的に言えば黒字化していないことになります。さらに、平成 17 年に宍粟市になってからは、経常損益はずっと赤字が続き、令和元年度に 21 年ぶりに数千万の黒字になりました。</p> <p>それからは、新型コロナウイルス感染症が発生して、当院もその感染症患者の受入れ重点医療機関の役割を担わせていただいたので、国からそれに伴う交付金をいただき、その影響もあって黒字化になった経緯があります。</p> <p>そういう過去を振り返っていただいても、総合病院は、これまで倒産の危機に陥ったこともなく、人の問題やいろんなことで、大変な時期があったのは事実ですが、そういうことも乗り越えて、この 50 年近くしっかりとした経営を今も継続しています。</p> <p>病院の運営というのはそういうこともございますので、そのあたりも少し頭の隅に置いていただければありがたいと思います。</p>

◆その他

No. 1 【建設予定地について】

質問	<p>住民の大半にとって今よりも通院が不便になる。医療を受けることに比べると通院が不便になるぐらいたいした事ではないと思われるかもしれないが、歩いてばっで行けるというわけではない。「通う」ということも非常に大事なことだと思う。通うことに対し、ずっと住民が今以上にエネルギーを使わないといけない。バスで補うと言われてもずっとエネルギーとお金がかかる。</p> <p>それに、今の病院だったら診療や治療を受けた後に、私はいろんな用事ができる。後で買物をするなど、これも住民にとっては非常に大事な事。それが新しい場所だとすごく不便になる。行政は住民にできるだけ平等にしてもらいたいと思う。今の場所でも決して病院は平等ではない。私を含め、千種の人たちは総合病院に通うのに非常に不便になっていると思う。わずか 2 km ですが、南に動くときさらに不便になる。</p> <p>その辺のことを考えると、どうしても私は納得できない。</p> <p>住民の不平等が進むと。私たちのような病院から遠いところに住んでいる者にとっては、病院からさらに遠くなる。同じ建てるなら、できるだけ住民に少しでも平等であり、少しでも同じような便利さになるようなことを考えてもらいたい。今回、このままの計画で建てられたら、私はずっと不平等なまま寿命もくると思う。</p>
回答 -1	<p>現在の病院が不便なところもあるということ、ご発言の中、バスで補うというお話もありましたが、新しい病院については、そのまま路線バスで乗り入れできるよう考えています。現在は、山崎待合所で乗換えるというような方法かもしれませんが、新しい病院になれば、乗換えずにそのまま乗り入れるということを考えています。千種の場合ですと、新病院までそのまま乗換えなしで行ける計画を持っています。</p>
回答 -2	<p>平等性を保つことは重要なことだと思います。</p> <p>一つの例として、バスの問題も出ましたが、新たな公共交通を再編した際に、戸倉から山崎まで大体 1,700 円かかっていた。千種からだとも、800 円から大体 1,200 円の間ぐらいだったと思います。それが本当に公共交通として平等性があるのかという議論の中で、200 円均一にさせていただきました。</p> <p>これが、おっしゃっている住民にとっての平等ということだと思います。</p>

	<p>新病院の場所は、宍粟市の一番南部で、みんなが遠くなるのではないかと云われますが、現状から言いますと、現地建替えはまず不可能ということに到達しました。</p> <p>したがって、どこに建てるかということになります。基本的に狭い敷地ですと、40年後になるか分かりませんが、将来建て替えるとき、別の新たな場所で建て替えなければならないというリスクがあります。</p> <p>したがって、駐車場も確保でき、利便性の問題も将来にわたって可能となるように、また、西播磨の北部の拠点としての役割も持つなど諸々の観点から、あの場所が適地だということで計画させていただいたところです。</p> <p>千種の皆さんにとっては、今の鹿沢というところから、さらに2km遠くなるというのは買物にも不便ではないかということですが、商店街やイオンの辺りもご利用いただきたい。また、旧山崎市民局跡地の観光駐車場も無料で停めていただいて周辺をご利用ください。</p> <p>ただ、2km南へ予定されていることは事実であります。可能な限り、平等性を保つということについては、十分理解しておりますので、新病院の建設予定地については理解をさせていただきたいと思っております。</p>
--	--

No. 2 【その他】

質問	できるだけ早くと言われていたけれど、市や行政が今やらないといけない、このままの計画で突き進まなければならない決定的な理由は何かあるのか。
回答	建物の老朽化と設備の基準がかなり以前のものになりますので、病院を利用される方や医療スタッフにとっても大変不便な病院となっています。そのため、できる限り早く改善していくということで計画を進めています。

No. 3 【その他】

質問	市長に問う。この新病院事業について、市民の皆さんにもかなり周知ができ、意識が上がってきたと思う。この会場もこんなに集まり、かなりの関心があるのかなと思っている。数か月後で構わないので、ぜひ大きなホールで公開討論会をしていただけないか。
回答	市民討論会については、するつもりはありません。

No. 4 【その他】

質問	若手医師の教育の話があった。一生懸命やられていて、次世代のお医者さんをつくるということだと思う。私は病院計画の見直しの署名活動を、ずっと宍粟市中歩いて回っていたが、かなり総合病院の評判は悪い。ぜひともソフト面の改善を図っていただいて、100%は無理かもしれないが、より多くの患者さんに、総合病院の評判いいよ、と言われるように、院長をリーダーとして頑張っていたいただければと思っている。
回答	現状では100%ではありませんが、総合病院として非常に努力をしていただいております。可能な限り100%に近づけるように頑張っておられると思うので、課題を整理させていただきたいと思っております。

No. 5 【その他】

質問	<p>私も違う病院で働いている者として思うが、やはり急性期病院なので、高度医療施設など、そういった機器や設備が入ってないと、正直、私も働きに行くのはちょっとなと思うのが実際のところである。</p> <p>その中でこの建替えについて、場所的な問題が確かにあったと思うが、人口がどんどん減る中で、現状維持を宍粟市内だけで保っていけるかといえば、人口が減ったらお客さんが減ることと一緒になので厳しいと思う。その中で、北西部をまとめていくような病院にしたいということであれば、今回この機能の改善的なところは含まれていないのかもしれない。</p> <p>周囲の県の病院の合併化がどんどんと進んでいる中、北西部で合併できる病院がない中で、この宍粟総合病院がめざすところ、俗に言う医療センターといっためざす目標点は何</p>
----	---

	かあればお聞きしたい。
回答	<p>これは、病院の役割というところで、この役割が果たしきれない病院になることだと思います。</p> <p>それは何かというと、地域でどうしても必要な医療を当院でまかなえるということです。大半の医療ニーズは普通の医療であり、その医療をきちんと任せてもらえるような病院をつくることです。そのためにはそれだけの実力が必要であります。普通の病気を普通に任せてもらえるためには、当院のスタッフが、普通の病気をきちんと安心して任せてもらえるだけの実力を持てるように、病院として育てていきたいと思っております。</p> <p>もう一つは、地域には唯一の総合病院ですが、もう少し広いエリアの二次医療圏までいくと、高度な専門技術を要する治療の受皿として、姫路地方には、はりま姫路総合医療センターや日赤があります。その大きな基幹施設とも、きちんと連携をとり、しかるべき医療が必要な患者さんは、きちんとそこへ送ることができ、またそのフォローアップが当院でできるという関係を構築し、全ての病気を当院に任せてもらったなら何とかしてもらえようというようにならないといけないと思っております。それが地域の中核病院の役割だと思います。</p> <p>それと、もう一つは地域包括ケアといいましたが、基本的には、病気というのは、病気を治すことも大事ですが、おうちに帰られるようにしてあげることが大事なこと、その二本立てがないと、地域では唯一の病院としては役不足です。</p> <p>救急車を断らない病院だけでは駄目で、面倒見の良い病院でないといけません。断らない病院かつ面倒見の良い病院というものが求められていると思っております。断らないという点においては、現時点で、かなりその実力はついてきたので、救急搬送もそうですが、大概の皆さんには、いつでも来てくださいというところまで、大分応えられるようになりました。</p> <p>10年前にはかなり厳しい時期がありましたが、現在は改善されてきています。しかし、それだけではなく、面倒見のいいところを考えないといけません。きちんと在宅復帰ができるように、地域包括ケア病棟でいろんなケアをして、機能回復を図ってあげることができなければならない。両方の機能をきちんと維持していかないといけないと思っております。</p> <p>それと周産期医療と小児、これはもう絶対地域にとって必要であります。もう既に産婦人科が無くなった病院が結構ありますが、このままでは駄目だと思うので、恐らく無くなった病院についてもこれから将来的には獲得していかないといけないと思っております。そうでなければ地域が減んでしまうと思っております。</p> <p>その点については、当院は、何とか生き残っているもので、これを何としてでも死守していく。そのためには医師の教育が必要だと思うので、今、来ている若手たちをきちんと育成して、次にバトンタッチできるような体制にしないと、産婦人科、小児科も無くなってしまいますので、そのような体制をめざしたいと思っております。</p>

◆説明会当日に頂きましたご意見

<p>病院や病院の利用関係者の責任ではないが、まず場所について、あかんと思う。災害への不安、現在の病院よりも、もっと危険ではないかと思える。</p>
<p>いろんな意見がある中で、宍粟総合病院に対して非常に感謝されておられる市民の方が多い。今後もお世話になりたい、早く良い病院をつくっていただきたいというふうな意見も私はたくさん聞いている。</p> <p>へき地における病院の中でも、特に宍粟の場合は、ここにしかないという病院である。</p> <p>これは行政を運営する中でも、過疎化あるいは少子化といった対策にとっても、これは非常に大事な、なくてはならない病院だろうと思う。この運営が、若干赤が出るとか云々といったことあるでしょう。ただ、市運営にとって、なくてはならない病院だと私は考えている。</p>